



◇ 日本考古学協会でのポスターセッション発表

SGH礼文島調査に参加したメンバーと地域研究部員を中心に、石器などを用いた骨割り実験を行い、その成果を日本考古学協会第83回総会研究発表会「高校生ポスターセッション」において発表しました。今年度は日本各地より9校が参加しました。高校生の発表会場にも多くの研究者が訪れ、一般の研究者による発表会場にまけないくらい熱心な対話が交わされ盛り上がりました。

◇ 生徒の感想（抜粋）

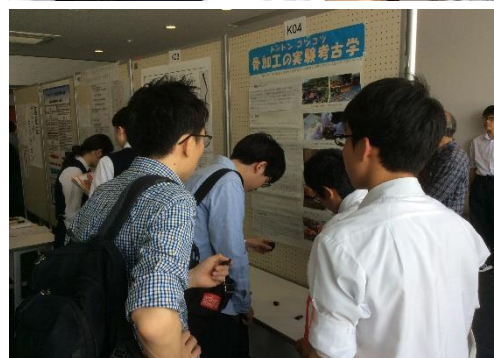
日本考古学協会は日本中の研究者が集まる会であり、発表はとても緊張しました。しかし、自分が礼文島などの活動を通して感じたことや学んだことを伝えることはとても楽しかったです。他校のポスターからは「研究成果のデータ化」など良い刺激を受けました。また、大学の先生や研究者に説明させていただくと、皆さん必ずと言っていいほどご自身の経験談やアドバイスを下さいました。

僕は歴史が大好きです。しかし、発展途上国支援にも関心があり、どんな進路を選ぶか迷っています。今回、自分たちの研究を説明する事はとても楽しく、僕たちのポスターを見て目を輝かしている研究者の方々を見て、歴史に対する思いが大きくなりました。

高校生ポスターセッションに参加できたことは貴重な経験となりました。見学したポスターには、私には思いつかないような研究や考察がたくさんあり、考古学の奥の深さを感じました。発表は緊張しましたが、たくさんの方のアドバイスをいただきました。狩りから骨割りまでの過程、調理方法など興味深い意見をたくさんいただきました。私は、この経験を通して研究とはどういうことか知りました。疑問を見つけ、考察し、さらに疑問を見つける。これを繰り返すことでより理解が深まり、新たな観点で見つめ直すことができるのだと思います。大学で何かしらの研究をする際には、私も様々な観点から考察できるよう知識や見聞を深めたいです。

研究者の方と話す中で、さらに深く自分たちの研究について考えることができました。「骨は煮るのではなく焼いてみたら異なる結果が得られるのではないか」「この時代の調理手順を考えてみたらよいのではないか」などの意見をいただきました。

わたしは、うまく説明できず1日反省のし通しでした。それでも、足を止めてくださる方やじっくりと読んでくださる方、「いいものを見た」と言ってくださる方が少なからずいました。自分たちの研究に興味を示してもらえたことがとても嬉しかったです。



上：研究成果をまとめたポスター
中・下：ポスターセッションの様子